

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400021		
法人名	K&Kサポート株式会社		
事業所名	うさぎ亀山グループ株式会社		
所在地	三重県亀山川合町1119番地38		
自己評価作成日	令和 3年 1月 27日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JizyosvoCd=2490400021-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JizyosvoCd=2490400021-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 3年 2月 17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員みんなで話し合って作成した理念の下、毎日笑顔で過ごせるよう努めています。その為に何でも話しやすい雰囲気作り、関係作りには日頃から職員が意識し利用者の皆さんと接し過ぎていきます。毎日施設の周辺に散歩へ行き体力をつけ、天気が良ければ近隣のお出掛けスポットへ行っています。今はコロナ禍の為外出が出来ていませんが、利用者からの要望の多いドライブに行き気分転換を図っています。利用者、ご家族、職員のみなさんにとって、うさぎ亀山が安心できる場所、働きやすい場所となれるよう一生懸命取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ感染症防止の為、面会制限や外出自粛が行われ、家族面会や地域交流が困難に近い状況の中、各事業所が個々で季節行事等を行い利用者の笑顔を引き出す努力をしている。職員間のチームワークも整っていて、利用者とは家族のような関わりが作られているので、利用者は安心して生活している。当日も利用者とは職員が笑顔で楽しみながら会話をしている場面を見かけ、すべての利用者が、家庭的な「もう一つのわが家」で穏やかに生活している様子が伺えた。今後、住宅地域社会の一員として、地域の人々と交流し、地域の中で認知症の相談の場となり、老人福祉の中心として期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者、ご家族、職員、地域の皆さん全ての方々と、どのようにして互いの関係を築いていくか、職員みんなで考え作成した理念を10年実践させて頂いている。	ミーティングや研修時に、理念を基に自己分析をして支援を振り返り職員間で話し合っている。また、利用者・職員等関係者が理念を常に共有し、ふれあい・ささえあい・笑顔を忘れずに和やかな表情で支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な毎日の散歩で、近隣の方々と挨拶や会話を楽しんでいる。コロナ禍の為、以前のように買い物や地域の幼稚園との交流は全く出来ていない。	事業所が立地している住宅街を利用者の体力に合わせて散歩し、地域の方と交流し柚子や野菜を頂いている。職員は認知症の相談を受けたり、認知症サポーター養成講座に講師役を務め良好な関係を築いていたが、現在はコロナ禍で地域交流は減少している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に講習等行っていないが、日常の挨拶や散歩等の様子を見てもらうことで認知症の人の日常が少しでも理解してもらえたらと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度はコロナ禍で一回のみの開催となったが、行事などの報告や取り組んでいることの相談、意見を聞かせて頂き実践につなげている。	偶数月の第一金曜日に定期的開催し、ヒヤリハットや事故報告をする中で、参加者から活発な意見が出され改善策を話し合う貴重な時間であったが、コロナ禍で1回のみの開催となった。2~6回は紙面での中止報告のみとなった。	今後、さらに地域の理解と支援を得る為にコロナ禍ではあるが、各参加者に事業所の状況を説明し意見や情報を頂くようにし、運営推進会議をより貴重な会議にされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	鈴鹿亀山広域連合、運営会議にも参加して頂いている地域包括支援センターと常に連携を図り、情報の交換やご意見を頂き、事業所での疑問など相談しやすい状況である。	亀山市と共同で立ち上げた地域密着サービス連絡会で意見交換会や研修で協力関係は築けている。介護保険の申請代行や運営推進会議の議事録を届ける等、常に連携し良好な関係である。コロナ禍で予定がキャンセルになっているが終息すれば再開を考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に一度定期的に身体拘束廃止・虐待防止委員会を、他事業所と協議を行い理解を深めている。出席者以外は議事録を確認している。施錠は安全のために状況に応じて行うこともある。	身体拘束防止マニュアルを全職員が理解し、ミーティング時や日常生活の中で確認し合う事が多い。身体拘束廃止・虐待防止委員会でご不適切な介護や声掛けの事例について話し合い改善策を決め全職員で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・虐待防止委員会を2ヶ月に1度、他事業所と開催し意識を常に持ち考える機会を設けている。あざ等の情報を全員で共有し、見過ごさない体制をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるとされており、理解はしているつもりだが、実際に制度が活用される機会はない。意識が薄れないよう定期的に研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定等の際は、しっかり説明し同意を得ている。ご家族より食費に関する要望を頂き、試行錯誤した結果、毎食分割し徴収する方法への変更に至った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情窓口の掲示物も常時貼り出しており、来設時には要望等を聞き取り職員間で情報を共有している。	コロナ禍で面会中止中には家族にメールやウサギ通信の中に利用者の生活状況を写真にまとめ報告して喜ばれた。また、家族から面会希望があり、色々と思案した上で安全性を確認して窓越しの面会を試みたが、別れ際に双方の淋しさが課題が出た。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにて、施設長・管理者含め話し合い、意見交換している。何かあればその都度、意見等を聞く機会を設けている。	職員個々が職員会議やミーティング等で、意見交換が積極的に行われる働きやすい環境である。出された意見・課題は全職員で検討し共有して運営に反映している。利用者個人の椅子を利用者目線の椅子に交換し喜ばれた。机も交換予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より向上心をもって働けるよう要望を伝えやすい環境作りを行ってもらっており、出来る限りの要望を伝えられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在の人員の状況では、働きながらのトレーニングは厳しい状況ではある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年研修等で交流する機会があったが、コロナ禍でその機会が無くなり難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族、本人様と直接お会いして状態・要望・意向等を把握し、こちらでどう応えられるか納得していただけるまでしっかり話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式の記入を必ずご家族にお願いし、面談等でも困っていること、ご家族の想いを聞きだしている。何があってもいいように終末期の考えも聞くようにし、当事業所の目指すものを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み、面談の時点で「必要」と判断され入所へ動かれているとは思いますが、入所されてからのデメリット(出来ないこと)もしっかり伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき「共に」の精神で、ご利用者と職員を切り分けて考えるのではなく、共に過ごすにはどうしたらいいのか、何ができ何が出来ないのか常に考え協力支え合いの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限はあるも、窓越しで面会して頂いたり手紙や毎月のアルバムの送付等、疎遠にならないよう心がけ、少しでも利用者ご家族に安心して頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出できずドライブしか出来ないが、住んでいた場所や馴染みの場所へ行き昔のことや人物を思い出せるよう会話をもっている。	「私の生活ノート」を家族に記入依頼し内容を職員が理解し話題を利用者に投げかけ話を盛りあげたり、昔の写真で場所を回想し笑顔になっている。また、併設のデイサービスに参加する事も利用者の楽しみであるがコロナ禍で行われず、淋しい想いをしている。そんな中でも、その方に合った関係継続の支援に前向きに取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が話しやすいようスタッフが間に入り、仲が悪い方がケンカにならないよう仲裁に入ったり、座る場所や通る道順など考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族と共に看取りを行った利用者様の奥様について、ご家族よりご相談があり入所に至ったというご縁がある。退所されても定期的に情報を収集している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意外に作れないスタッフと利用者との一対一になれる時間を、散歩の時間に設けゆっくり会話を密に出来る様工夫している。日常的な会話の際に、傾聴・気づきもてるように努めている。	意思疎通が困難な方には、家族に聞いたりセンター方式を活用し、意向を全職員で共有し把握しようと努めている。また、日々の会話の中や入浴及び散歩中に本音を聞く機会が多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、センター方式を活用し、職員全体で把握するよう努めている。センター方式にてご家族より情報を頂いても、しっかり把握できない所は面会時に聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、歩行食事状態、表情や言動の変化を常に観察し、小さな気づきもスタッフ同士で意見交換し、申し送り等で職員全体で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が各担当者のモニタリングを毎月行い、ミーティングで意見交換し介護計画に反映させている。面会・来設時に、ご家族の意向を確認している。	利用者家族から聞き取ったアセスメントを参考に担当者を中心に毎月モニタリング、職員会議・ミーティングでカンファレンスをし計画作成者が介護計画を作成している。計画作成予定表で計画の変更・変化が一目瞭然にわかる様にし、医師や家族の意見も取り入れた現状に即した計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話の内容や些細な事でも記録に残し、いつもと違う行動があった際は詳しく記入している。新しい情報を共有する際、連絡ノートに記入しスタッフ全員が情報を把握、実践にうつせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の習慣としていることを継続している事例がある。家族間の人間関係なども考慮しご家族の想いを尊重した対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は幼稚園の行事に参加交流したり、ボランティアの方を受け入れたり楽しんで頂ける機会があったがコロナ禍の為今年は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による2週間毎の往診と、緊急時に24時間対応して頂いている。病状に変化があった場合は直接協力医からご家族へ説明して頂くようにしている。他科受診が必要な場合は、近況を書面で情報提供しスムーズに診断治療につながるよう対応している。	月2回協力医の訪問診療、健康管理を受けている。緊急時を含め24時間いつでも相談可能で医療体制は整っている。他科の受診は情報提供用紙を家族に渡し協力を依頼している。緊急時は職員が対応し、結果は受診記録と連絡記録に記入し関係者が情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に一緒に状況を観察し、変化にはその都度報告・相談し対応指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はサマリー提出を行い、利用者の不安が無いよう定期的に本人との面会を行い、病院の方に状況を確認している。早期退院に向け、医師・家族を含め話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況や状態が変わる毎に、ご家族に説明し思いや意向に添い「看取りの指針」を作成、同意を得ている。出来ることを出来る限り行い、慣れ親しんだ場所でその方らしく最期をむかえるよう支援させて頂いている。	「重度化及び看取りに関する指針」があり、事業所として出来る事と出来ない事を利用者や家族と話し合いをその都度している。医師・看護師・看取り支援に関する職員の役割は明確にされている。職員教育・研修も実施済みである。昨年1名の看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを提示しているも、実践する機会が少ない為なかなか身に付かない。昨年より課題になっているが、訓練が行えるように早急に対応したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回全事業所合同で利用者も一緒になり総合訓練を実施しているが、本年度はコロナ禍で実施に至っていない。自治会、地域との助け合いが出来るよう、水や食料の備蓄を行っている。	年2回の消防署職員の参加指導での避難・消火訓練はコロナ禍で実施できず。事業所独自で、感染予防に気を付け一月末消防署職員の指導で(消防検査含む)職員5人で玄関ホールにて防災訓練をした。コロナ禍で訓練は行えないが、今後近隣住民との連携、協力体制の構築に努めようと前向きである。	コロナ禍で利用者・地域の協力を得ての訓練は困難な状況であるが、災害に向けた危機意識を持ち利用者の安全確保や避難がスムーズに行えるように机上訓練等さらに訓練を実施する事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の前に一人の人間として性格や心身の状態を考慮し、臨機応変な対応を心掛けている。親しみと尊厳のバランスに気を付けて声かけしている。	笑顔で傾聴し支援する事に心掛けている。利用者の言葉に耳を傾け、個々の生活歴を理解した上でプライバシーを害しない言葉かけやさりげない支援を心掛け、実践している。身だしなみにも気を付け、髪の毛の長さも本人の希望を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に遠慮なく話せる雰囲気を作り、返答しやすい簡単な質問の仕方でも気持ちを伝えられるよう会話をもち、表情をしっかり観察し言葉に出来ない時は推測している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとり身体、認知症の症状が違うため、9名全員の希望に沿うのは難しくはあるが、なるべく希望を発信している時に取り入れられるよう努力している。発信がない場合は、こちらから案を出して聞きだせるよう会話をもっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される化粧品や馴染みの物を購入したり、日々の身だしなみはもちろん、ヘアカットの細かい希望や洋服の好み等、その方が望むその方らしさで過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る能力に合わせ食事の準備(野菜の皮むぎ、カット)等、一緒に作業して頂いている。誕生日には本人様が食べたいものを提供している。	利用者の好みや希望を聞き入れ手作りの誕生日ケーキや行事食を役割を持って皆で作る事は、利用者のやり甲斐にもなっている。利用者の出来る事(野菜切り・食器拭き等)一緒に行い家庭的な雰囲気の中で、笑顔で食事出来る工夫をしている。とろみ食・刻み食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下の状態を踏まえ、むせ込みが強い方にはトロミを使用、嚥む力が弱くなってきた方には刻み食等、安全に経口摂取でき栄養状態を保てるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自居室にて口腔ケアを行っている。夜間は義歯洗浄、消毒を行う。散歩後はうがい薬(飲み込まれる方は出がらしのお茶)でうがいを行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を観察し適切なパット紙パンツ等を使用し、不必要であれば布パンツに変更している。一人ひとりのサインや動きを把握し、的確に誘導・自立に近づけるよう支援している。	個別の排泄パターンを全職員が把握し、表情や時間を見計らってさりげなくトイレ誘導をし排泄の自立を促す支援をしている。布パンツに改善した利用者が3名いる。便秘改善体操や食物繊維食摂取で、スムーズに排泄ができ自立に結びつけた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩やラジオ体操に加え、水分量や乳酸飲料など気にしながら提供しているが、改善は難しく服薬にて対応していることが多い。毎朝ジュースを飲むと排便が出やすい方には、習慣を継続し予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外に組み合わせたメンバーで入浴して頂いているが、時間が許せば希望の入浴も可能である。決まった順番にならぬように、記録を残し平等に入れるよう工夫し、季節によりゆず湯等ゆったりと入浴を楽しんで頂けよう努力している。	利用者の意向を大切にして週3回の入浴を基本としている。利用者の希望した入浴剤や柚子を入れ、季節感や香りを味わい入浴が楽しい時間になっている。拒否される利用者には、職員を変えたりタイミングを伺いながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝のタイミングを尊重し、居室の照明の明るさ、布団や枕、ぬいぐるみ、寝る方向等ゆっくり安眠出来るように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに合わせ服薬しやすい形状にしている。薬の内容説明の用紙を薬と一緒に保管しつつも確認出来る状態にし、薬の変更や追加があれば連絡ノートにも記入し情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式や会話から、本人の好み等を知り、認知症の状態を考慮しながら、買い物や調理、手芸、裁縫や園芸等、得意な作業が、その方のペースで楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度はコロナ禍の為外出は出来ていないが、平日頃から行っているドライブへ弁当を作って出先で食べたり、季節の花を見に行き季節感を味わって頂けるよう努めている。	現在はコロナ禍で満足な外出が出来ていないが、良天の日には菜園の大根を見に出かけ作り方のアドバイスをしたり、職員と一緒にゴミ捨てに出かける等、役割を持つ事が生活の意欲に繋がっている。コロナウイルス感染症対策で外出が困難な中、出来るだけ戸外に出かける支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で預かり職員が管理している。買い物等で使えることは本人にも説明しており、支払いの際本人に支払って頂く機会を設けている。現在コロナ禍で買い物に行けない為、行事で自動販売機でジュースを買って頂き一連の流れを思い出して頂いた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や手紙を出している。文章を書くことや電話で会話を理解することが難しい方も多いが、出来る限り名前だけ書いて頂いたり、スタッフが間に入って会話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に作った季節毎の飾り付けを毎月行い、季節を感じてもらえる家庭的な空間を作っている。整理整頓、室温湿度の管理に加え1日3回の換気を施行し、日差しが良く当たる時は、利用者同士で日光浴を行っている。	コロナウイルス感染症の状況を考慮し、消毒・室温・湿度の調節、定期的な換気を行い、感染症対策に努めている。日光浴のできる大きな掃き出し窓を開ければ冷たい風が肌に触れ季節を感じる事が出来る。利用者はほとんどソファでくつろいだり、レクリエーションを楽しんだりと居間で寛ぐ事が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間のなかではあるが、相性に考慮して席替えをしたり、会話が弾む方同士ソファでくつろいで過ごして頂けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やぬいぐるみ、ご家族との思い出の写真など、自由に持ち込んで頂き、落ち着ける空間作りが出来ている。	自宅で使い慣れた机や家具を持ち込み、個性ある部屋となっている。備え付けのクローゼットや鏡付きの洗面台は使い勝手が良く、清潔感があふれている。自室で居心地良い暮らしが出来工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレ、台所、浴室等プレートが貼ってあり分かりやすくしている。入所間もない方には、表示を大きく追加し場所の認識をいち早く行えるよう配慮している。車椅子シルバーカーでも通りやすいようテーブルを配置し、夜間は転倒防止にライトをつけている。		